

2019年立川市長選挙

市民と共産党など超党派で支援

酒井大史氏 ^{257票差} 大健闘

投票率 34.74%(前回 29.20%)

	候補者	党派	得票(前回)	得票率(前回)
	酒井 大史(新)	無所属 共産・立憲・国民・社民・未来・ 緑・ネット・立川市民連合 支援	25,840 票(-)	49.24%(-)
当選	清水 庄平(現)	無所属 自民・公明 推薦	26,097 票(27,426)	49.75%(65.31%)



結果報告を行う酒井氏 ↑

9月1日に投票された立川市長選挙。日本共産党は、立川市民連合を介した政策協定にもとづき、元都議会議員の酒井大史氏を支持し、市民と、国政野党を中心に6党・1会派の超党派で力を合わせて支援してきました。

酒井氏は、事前のメディア予想を覆し、25840票(得票率49.75%)を獲得。歴史的な大健闘をするも、257票差で届きませんでした。みなさまの支援に、心から感謝を申し上げます。

酒井氏と立川市民連合、政党による政策協定の調印式は告示日前日の8月24日。結果は大変悔しいものですが、超短期決戦でも、市民と超党派の共闘で、自民・公明が推薦し、有名国会議員らの応援を得た現職市長と互角の戦いを展開できたことには、大きな意義があると考えます。

政策協定は、砂川闘争をはじめとした立川市民のたまたかの歴史、全国の「市民と野党の共闘」の到達の上に練り上げられました。憲法・消費税・基地・原発など国政課題を包含する参院選共通政策を土台に、横田基地問題、学校給食や国民健康保険料などの市政の課題、社会問題化した表現の自由やヘイトスピーチへの対応など、幅広い一致点が確認されました。

自民党の都議や国会議員は、市民連合や日本共産党への攻撃を繰り返し、共闘の分断をはかりましたが、酒井氏自身が街頭で公然と反論するなど正面からこれを打ち破り、陣営は最後まで団結してたたかいました。

私たち日本共産党は、今回の市長選挙を経て共闘の幅と質がともに発展したことは、必ず次につながると確信しています。立川市政転換をめざして一致点での共同を進めるとともに、来るべき総選挙では、市民と野党の共闘で安倍政権を倒し、野党連合政権へ。今後とも全力をあげます。

2019年9月1日 日本共産党 立川・昭島地区委員会

市民と超党派の短期決戦で、自民・公明と互角の戦い